

袁エヌ

安アン

碑ヒ

永元四年(九二)
(後漢時代)

旧い書法様式の刻石①

木雞

木雞室
伊藤滋

図版②



整拓本

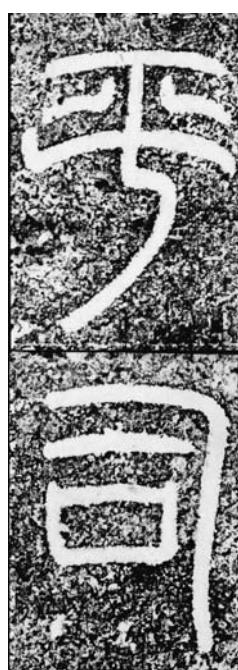


原碑

図版③



袁敵碑



袁安碑

一面的なものでなく、生活の場に応じた各種の様式が、存在したと

代においての旧式の書法を紹介しよう。第一回は、後漢時代の前期に刻された袁安という人物の墓碑とされる『袁安碑』です。一九二九年河南省偃師県から出土したと伝えられ、現在は河南省博物館に所蔵されています。碑高1.53メートル、幅74センチ。10行、1行あたり15字。碑の中央に円い穴が在ります(図版②)。文字はやや縦長で大きくても言葉べき趣を具えたものであつたろう。それ故に、厳かにかつ美しく、という条件が必要とされた。書法は、

古代の碑に刻された文字の用途は、後世に伝えることを第一の目的とし、碑刻に使用される書体は、権力の象徴推測される。衣類の様式も生活の場において様々に異なる。新しい流行のものから、旧い伝統的なものまで様々である。書法も同じように、いつの時代に在っても新旧の書体が存在した。今回から数回にわたり、漢時代から唐時

す。文字の大きさ書風が全く同じです。

(図版③)。恐らく同一の筆者によるものでしょう。「袁敵碑」は一九二三年

洛陽で発見され、現在は遼寧省博物館の所蔵です。

次号は、「祀三公山碑」です。この欄に関するご批評、ご意見、ご希望、ご質問などをお聞かせください。私宛に直接メールで、また編集部宛にお送りいただければ幸いです。

伊藤滋 メールアドレス

mokkei@galaxy.ocn.ne.jp

びやかな筆勢をえた力強い線質です。清朝後期の鄧石如の書法に近いです。前半は丁寧で後半はやや粗い趣が見られます。またこの数年後に刻された「袁敵碑」があります。前半は丁寧で後半はやや粗い趣が見られます。刻する人物の違いでしょうか。またこの数年後に刻された「袁

敵碑」があります。前半は丁寧で後半はやや粗い趣が見られます。刻する人物の違いでしょうか。またこの数年後に刻された「袁

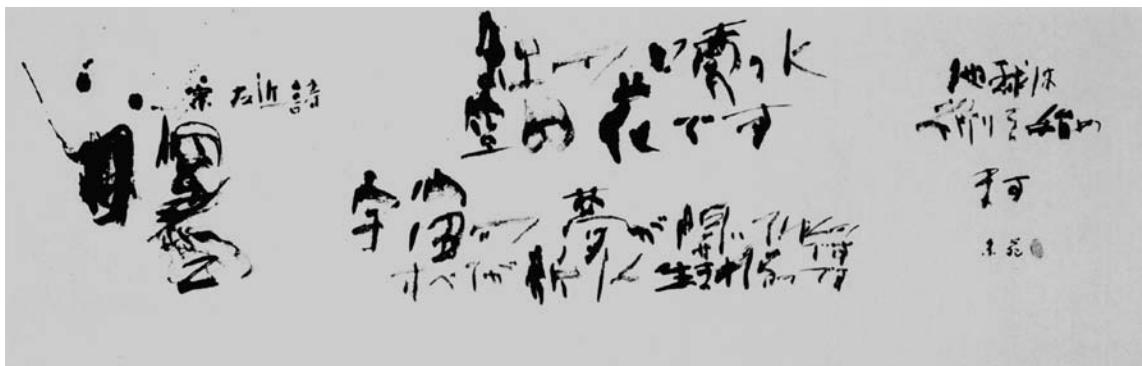
敵碑」があります。前半は丁寧で後半はやや粗い趣が見られます。刻する人物の違いでしょうか。またこの数年後に刻された「袁

敵碑」があります。前半は丁寧で後半はやや粗い趣が見られます。刻する人物の違いでしょうか。またこの数年後に刻された「袁

敵碑」があります。前半は丁寧で後半はやや粗い趣が見られます。刻する人物の違いでしょうか。またこの数年後に刻された「袁



書道芸術院 平成の群像 (2012)



「宗左近の詩」 第62回書道芸術院展

「空間美」を求めて



熊谷宗苑

昨年3月11日、東日本大震災により三陸沿岸地域、当気仙沼も未曾有の被害を受けました。その折の院並びに皆様からのご支援に改めて深く感謝申し上げます。復興は遅々として進んでいない現状ですが、「書」を通し地域再生への一助になればと思っております。

教室でのある日、「現詩に手本とはナンセンス!」との東京帰りの若者の言葉に変に(?)納得。暗中模索の出発でした。

歳月だけが過ぎていきます。いま、作品制作で改めて白と黒の対比を意識しています。「空間美」求めてのことです。「空間美」を文字間、行間に余白のみに矮小化することなくさまざまな空間処理に挑戦したいと思っています。どんな作品ができるのか、はたまた挫折。こんな繰り返しで月日を重ねて來たのでした。

「芸術的行為の試行錯誤の繰り返しによって、いつかは芸術への高い次元に自らを引き上げなければならない」(青木香流)の文章に出会い、苦しみながらも続けていくことに意味があるので思っています。

写真の作品は宗左近詩「曙」を横書きにしたもののです。はたして作者の詩情をとらえることができただろうか。

書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

平成23年度事業、決算など承認
定例評議員会・理事会開催

5月13日(日)、上野精養軒にて10時より評議員会、13時より理事会が開催され所定の議事及び審議事項などが原案通り承認された。評議員会では年間の議長に坂本素雪氏を選任した。

議事 平成23年度事業報告

平成23年度決算報告・監査報告

平成24年度補正予算
公益財団法人移行後の評議員選定委員会の設置及び委員の選任

・院評議員代表 石井明子

・監事代表 金井如水

・事務局 千葉蒼玄

・外部委員(2名)

島谷弘幸(東博副館長)
伊藤滋(東京学芸大講師)

審議事項 人事についてほか

秋の講演会講師に岸井成格氏

本院恒例の11月23日創立記念日講演会講師に毎日新聞社主筆岸井成格氏をお迎えすることとなった。

TBS-TV日曜朝のサンデーモーニングなどでおなじみの方で、政治問題の解説者として多方面にわたって活躍中。講演会ご案内が別紙にて会員各位

(審査会員候補以上)に配布される予定。無鑑査・一般の方々は指導者などを通じてまたは院事務局へお申し込みを。(FAX 03-3862-1957)

日時 11月23日(金・祝) 14時

会場 上野 精養軒

定員 先着200名

申込締切 10月末日

講演会終了後 岸井先生を囲んで会員の懇親会(参加費無料)を開催します。奮ってご参加を。



第64回毎日書道展公募・会友昨年より300点出品増

昨年の東日本大震災の影響により63回展は若干の減少であった。64回展への影響が心配されたが漢字部、前衛書、刻字で出品数を伸ばしトータルで300点余出品増となり、関係者は一安心。院長は「今年は震災の影響で多少の出品減はあるが、関係者は安心して出展してほしい」と語った。

**日本詩文書作家協会展
心の故郷:そして今を書く
特別展示 日中文化人の書**

詩、短歌、俳句、更に童謡などをテーマに親しみやすい書の普及発展を目指して結成された「日本詩文書作家協会」が主催の展覧会。今回は標記のテーマでの開催となった。また本年が日中國交正常化40周年にあたることから、日中文化交流協会、中国文学芸術界連合会と共催による「日中文化人の書」が特別展示される。更に会期中には講演会や席上揮毫会も計画されている。

64回展は改修中の東京都美術館が4月より使用可能となり国立新美術館と両館を全館使用となつた。展示計画が大きく変わることになり出品者各位のご注意を。

本院関係出品者

辻元大雲・飯高和子・砂本杏花・小竹

	漢字		かな		近代詩文書	大字書	篆刻	刻字	前衛書	合計
	I	II	I	II						
本年度公募出品数	4,404	5,695	1,887	2,191	4,947	1,738	474	794	1,378	23,508
			10,099		4,078					
本年度会友出品数	1,481	989	227	829	1,457	521	89	97	282	5,972
	2,470		1,056							
本年度U23出品数	233	444	114	79	585	238	34	34	67	1,828
	677		193							
合計	13,246		5,327		6,989	2,497	597	925	1,727	31,308
第63回展出品数	12,871		5,367		7,039	2,558	626	883	1,662	31,006
前年度増減	375		-40	-50	-61	-29	42	65	52	302

書道芸術院	漢字	かな	近代詩文書	大字書	篆刻	刻字	前衛書	合計	
本年度	415		276	572	201	0	106	520	2,090
前年	410		278	520	212	0	118	468	2,006
増減	5		-2	52	-11	0	-12	52	84

全日本書道連盟総会開催

昨年8月に公益社団法人の認可を受けた全日本書道連盟の理事会・総会が3月1日に続き5月24日(木)午前開催され、23年度の事業報告、会計決算、24年度の諸事業、予算などの大綱が決まった。

ここ数年会員の減少が問題となっており、維持團体である本院も会員増加運動への協力を求められている。会員資格は毎日展会員または同等と認められるもので、本院の場合審査会員の方は有資格者として推薦している。

- ・年会費 12,000円(正会員)
- ・加入希望者は院事務局までご連絡を。(でも) 6,000円の制度もある。
- ・入会申込書など送ります。

石雲・浜田堂光・坂本素雪ほか20名。
・席上揮毫 熊谷宗苑(6/9 14時)
・会期 6月5日~10日

前衛書

(三)

津田海仙

筆の開発に視点

私が筆を手にしたのは9才。半紙用と名前用の2本。その後、書初め用の



富山県書道連盟 '09企画展

73×152cm

筆で、習いにいくのが嫌になっていた時、70cm×70cmの紙に詩を書かせられた。その時の筆が羊毛で短鋒。使いこなして見せて下さった。「これも筆だよ」といわれ興味が湧いてきた。前衛書の筆は何でもあり、これでやってみようと興味と研究心をもってやらないと続かない。特に文房四宝の商店以外に目を向けると、意外と多くあり、自然界にあるもの何でもかんでも使いたくなれる。箒・布・刷毛・紙・鉄板・プラスティック板・木の葉・花の茎・稻穂など。これらを活用して、創造したイメージに合うか、いかにしたらよいかと、資材の特性を掴んで研究すると面白い。

私は、経済的理由で筆が買えず、筆の代わりになるものがないかと探した末、見つけたのが座敷箒である。箒の柄の結果が稻穂である。早速田舎へ出かけてわけてもらい、穂の先を軟らかくして使うとなる。このようにイメージに合わせて用具を求めてきた苦勞が記憶にある。

現代詩文書

(三)

齊藤理舟

現代詩文書の作品を作るに当り、何(題材)を書くかが一番の問題です。

今までの経験上、題材がある程度決まれば「仕事の半分は終

った」と感じます。日頃から、見聞きする言葉や詩文に関心を持ち、心に響いた語句等があれば記録するようにしています。

は現代の詩文である事が条件の一つになつてるので、題材

21世紀の書

—私の主張—

を探すに当っては、新聞や雑誌の存在は欠かせません。その中で、今の社会にマッチした題材を見つけてたいもので

す。世の中が複雑になり、書の題材となり得る詩歌、俳句等の内容もかなり多岐に渡っています。自然を賛美するもの、人の心を写すもの、社会問題を

取りあげるもの等々、全て現代を現わす言葉であります。私は自然を愛でた詩歌が大好きで、情景が目に浮かんできたら自分がその中に居るような気分で書いています。

写真は、半折額を曰いっぱいに利用した作品で、果てしなく続く十勝平野の冬景色を書いたものです。



'05書道協会展

齊藤理舟書

役員作品巡回展

併催 四国支局展

会期 平成24年4月17日(火)～22日(日)

会場 高知市文化プラザ かるばーと

参与会員

谷 脇 梅 翠

「すばらしい展示会場ですね。中央から離れた地方にこのような会場が建築されることはたいへんうらやましいことです。」高知県在住以外の方では、はりまや橋からすぐ近くのこの会場を訪れた方が、異口同音に言われることばとなりました。

本県での書道芸術院役員作品巡回展は5年前にもこの会場で実施されました。館名は「高知市文化プラザかるばーと」です。

壁面の高さ6メートルがすばらしく誇れるものです。どんな大作でもゆっくりと豊かな気持ちで鑑賞することができます。

今回の役員作品は前回と同じく小品

ですが一点一点に高い品性と個性が見られ、参観者に心の安らぎと多くの感銘を与えることができたものと思って

陽春4月、いつしか葉桜の頃となつ

審査会員

浜 口 瑞 香

います。

四国支局会員の作品は、巡回作品と

異なり大作も多く、自由活発、また今までの研究を大切に『温故知新』と思われる作品もあり、明るく伸び伸びと楽しい書展会場となつたことは特筆すべきことでした。



恩地春洋会長による作品解説

た南国高知で、4月17日から22日まで開催されました。5年に一度の、この書展は、中央でご活躍されている先生の作品を間近にし、高知では馴染みのない前衛書・刻字等も鑑賞することもできるので、多くの方々にご来場いただきました。

地元会員は、新たな作品を発表しようと、審候の方々を中心、3メートルを越える大作に意欲的に挑戦し研鑽を積んできました。その作品から発せられる強い思いとパワーが会場に溢れ、見応えのあるものとなりました。



辻元大雲理事長による作品解説



千葉蒼玄先生による席上揮毫



下谷洋子先生による席上揮毫



飯高和子先生による席上揮毫



千葉蒼玄先生による揮毫作品解説

＜顕彰式の様子＞



辻元大雲先生による席上揮毫



私たち、この記念展を開催したことで、四国支局の力の結集と、躍へとつながる底力を感じることができました。次の70周年記念展の更なる発展に期待しているところです。

事務局
川島舟錦

4月21日(土)は、中央から5名の先生方をお迎えしたことでの会場は多くのお客様で賑わいました。まず、恩地春洋会長、辻元大雲理事



長による作品講評会は、歴代会長のこと、作品鑑賞の観点など、聞き漏らすことのないようという静寂と緊張あふる時間・空間となりました。

次に、4名(辻元大雲・下谷洋子・飯高和子・千葉蒼玄)の先生方によるパフォーマンスです。トークにも技術にも風格があり、「一流」に感じ入る40分間となりました。

祝賀会では、一般・無鑑査・審候の皆さんの中から選ばれた推薦作品「恩地春洋の目」「辻元大雲の目」各5点の表彰式にあたたかい拍手が会場いっぱいに響きわたりました。



〈解説〉

高貞碑の字形は方正で極めてよく整い、一点一画寸分の隙もなく、よく計算されている。書風は一見、龍門風であるが、あの荒々しい險しさはなく起筆はシャープで線質は穏やかである。

これは筆者が北魏特有の力を外に張る筆法より、力を内に藏する南朝の優雅な書法に関心が強かつたから、と推察できる。
（編集部）

我德如風物應
如響弱冠以外
戚令望除秘書

特別研究部臨書課題

（毎日展公募サイズ以内・縦横自由）左記の掲載以外も可

用紙 半紙普通判
左の法帖の中から
何文字臨書してもよい。
(掲載部分以外は不可)

※落款を必ず入れる
署名、もしくは

○○臨
(押印のみも可)

特別研究部臨書課題

II (毎日展公募サイズ以内・縦横自由) 左記の掲載以外も可

II注II

- ・升色紙は、左記の掲載写真を全臨する。(拡大臨書も可)
- ・左記の原寸大で書く場合は、半紙もしくは半紙の大きさの
料紙に枠をとり、その中に書く。
- ・落款を必ず入れる。署名もしくは○○臨、押印のみも可。
(落款の位置は、枠内でも枠外でもよい)

※落款を必ず入れる。署名、
もしくは○○臨
(押印のみも可)

用紙
半紙普通判(料紙可)
〈たて長に使用〉

- ※別紙を裁断して貼付も可。
- ・半懷紙は、半紙サイズに切って使用のこと。

東京国立博物館蔵

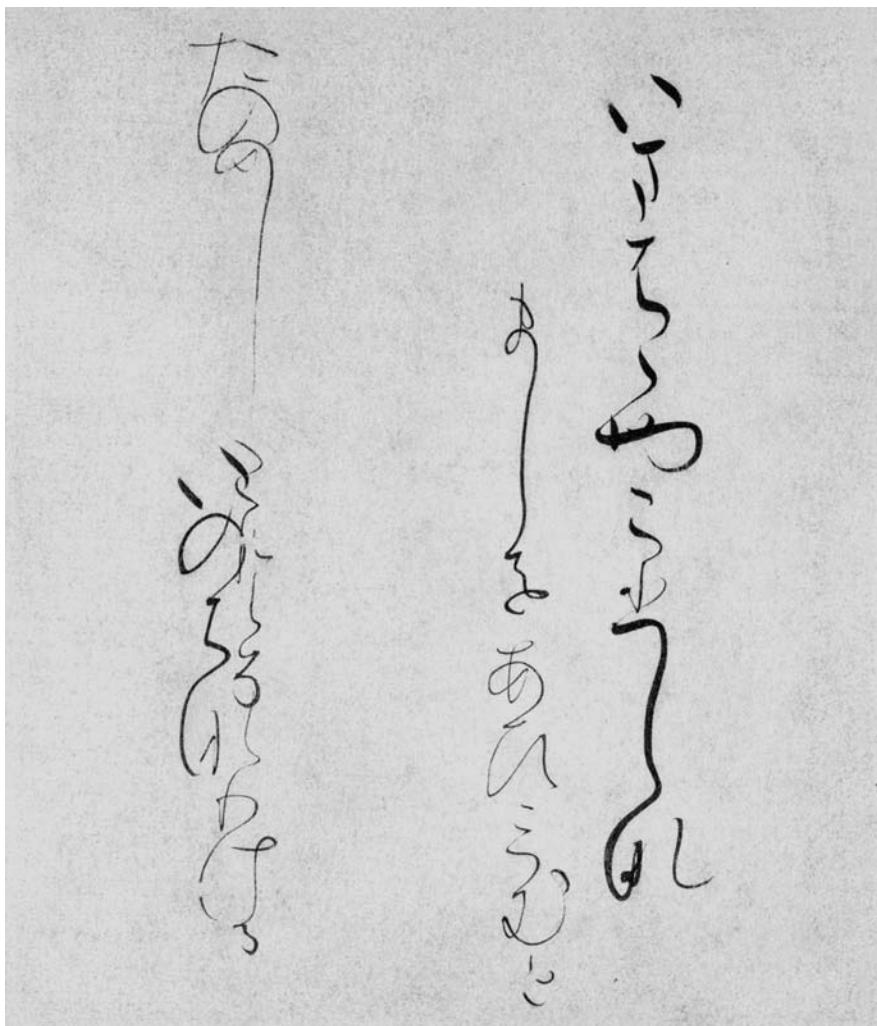
〈解説〉

今回掲載の部分は、行間の広狭の変化が著しく、後半の二行は行と行が接近して文字が重なり合っている。この行を、濃淡や線の太細を変えて絡ませる手法は、他の古筆の例を見ない書き手の意図的な表現と言える。

また升色紙は、五月号のように、歌の行頭に藤原定家による書き入れの見られるものがあるが、これは定家の愛蔵本であつたことを伝えるものである。「はるかすみ」の行頭の斜め線(那利登曾)

巧妙な散らしが特徴の升色紙だが、後の人気が一葉に二首書かれたものを一首に置き換える形をえたものもあると言われている。そうは言っても現在の姿が不自然でないのは流石である。

(編集部)



よみ
いまはゝやこひしな
たのめしことぞ
ましをあひみむと
いのちなりける

習い方解説 (三)

半田 藤 扇

但聞人語響
(但だ人語の響きを聞くのみ)

王維「鹿柴」承句
ただ人の話し声らしいものが聞
えてくるだけだ

王維は、自然詩人として、李白、
杜甫と併称される盛唐の大詩人。
芸術家で画・書・音楽にも卓絶し
た。

今回は、顔真卿の筆法をとりい
れ、向勢で雄大な單体行書で書い
てみました。羊毛筆でやや太めの
筆で書くと雰囲気が醸し出される
のでは。顔真卿の影響を受けたの
は空海(弘法大師)だと推測され、
また長三洲が顔法の開拓者とし
て名高い。

※長三洲＝幕末(1833—1895)明治期
の漢詩人・書家。豊後の人。維
新後東宮侍書などを歴任。

五言絶句の構成

○○○○一 起句
○○○○一 承句
○○○○一 転句
○○○○一 結句

但聞人語響 よみ(但だ人語の響きを聞くのみ)

書体＝自由



習い方解説(三)

小林琴水

落花啼鳥
(落花啼鳥)

画数の多い語字ですが横画を少し
細めに、太い細いのバランスを考
えて縦長の字形で書いて下さい。

詩に云く

「落花寂々として山に鳴く鳥。楊
柳青々水を渡るの人」と。
これ又春の光景。



琴水

書体＝楷書

落花啼鳥

よみ(落花啼鳥)

かな規定 初段以上 【七月十五日締め切り】 用紙 半紙普通判（料紙可）

下谷洋子選書

習い方解説
(三)

下谷洋子
はなご ようこ

さゆりあじさゆりさて花心かな
(稻畠汀子)

寸松庵色紙や香紙切に「虚実式」と呼ばれる散らしの形式があります。行を右に片寄せ、左側を大きく空けています。

行の長短、行間の広狭、行の方向など微妙に変化させています。勿論それに伴い文字の組み合わせも煩雑にならないよう考へられていました。この変化があるからこそ、左の広い間が余白となって活まるのです。今回は、この虚実式にヒントを得た構成です。上質の羊毛を用い連綿を多用し、句意を想いながら一気にリズムを運びました。繰り返しの言葉も創作を楽しくさ

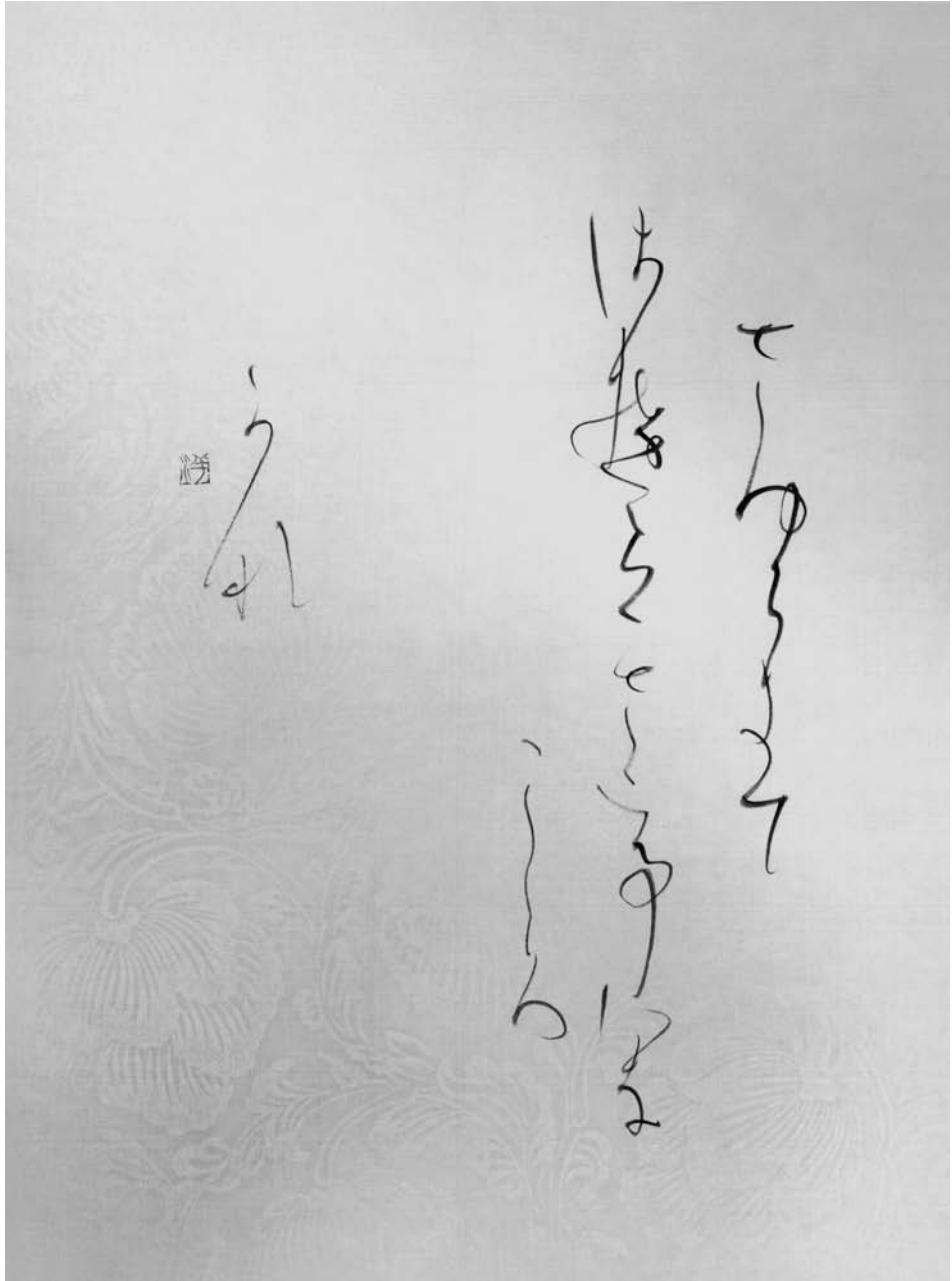
稻畠汀子 1931年生。日本伝統俳句協会設立。祖父は高濱虚子。

よみ方 さゆらぎ(支)てさ(佐)ゆ(遊)らきて(寧)は(八)な(奈)こゝ(こ)ろか(可)な(那)

創作



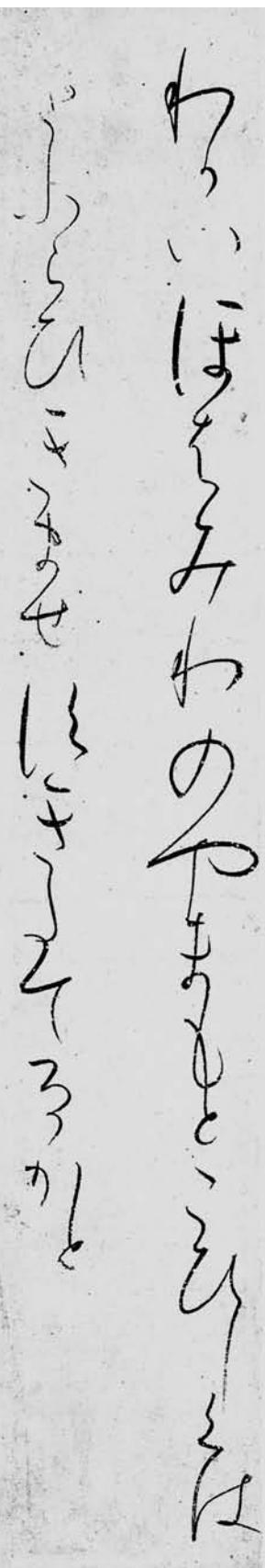
「寸松庵色紙」



かな規定 秀級以下【七月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真のうたを全體、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。

高野切 第三種
(掲載写真縮小93%)



よみ方 わが(可)いほは(者)みわのやまもとこひしく(久)は
とぶらひきませす(須)ぎた(多)てるかど

習い方解説 (三)

和氣しげ代選書

かな条幅規定【七月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

和氣しげ代選書

今朝咲きしへんなしの又田ありと
(星野立子)

梅雨時に咲く白い花は香
りが強く、純白の花は清々しいこ
と。情景を思い乍らすっきり仕上
げたいと思い、「朝」と「さ(佐)」を左に
少し出して、動きをつけます。二
行目「白…」で含墨、残り三文字
ですから筆先につける位に、一行
目に軽く添えます。

創作

よみ方 今朝咲(さき)き(支)しへ(久)ちな(那)しのまた(多)白(しろ)いこと(益)

*たて形式に限る

西林乘宣

天生麗質難自棄一
朝選在君王側一

天生麗質難自棄
一朝選在君王側
(天生の麗質、白ら棄て難く、一朝選ばれて君王の側に在り。)

(長恨歌・白居易)

書体=自由



漢字条幅規定 秀級以下 [七月十五日締めきり] 用紙 小画仙紙半切

大野祥雲選書

習い方解説 (三)

大野祥雲

一日一日がかけがえのない一日
であり、この一日を確かに生きる
ことの大切さをいう語です。
五字中「日」が三字、「是」に
も日があります。その一字一字が
微妙に変わっているようにとの思
いから素材にしました。ところが
むつかしいです。結局、字形、大
きさ、接筆、動きなどの違いだけ
の作となりました。

日日是好日
(日日是れ好日)

(碧巖錄)

書体=自由

楷書です。地元のある書道誌で
智永の「真草千字文」を毎号手掛
けているので、その真すなわち楷
書の調子で書いてみました。皆さ
んがご子弟に手本を書かれる時
参考になります。同じく古典と課
題の間を往復して下さい。横画の
起筆と三折の法に特徴があります。
(大意一生まれながらの美貌は棄
ておられるはずもなく、ある日君
王の側らに仕えることとなつた。)

習い方解説 (三)

稻垣 小 燕

てるてる坊主 てる坊主
あした天氣にしておくれ
いつかの夢の空のように
晴れたら 金の鈴あげよ

朝原鏡村作詞・中山晋平作曲

小燕書

書体=自由

用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

最近ではパソコンで文字を打つ機会が多くなって、手書きをすることが少なくなりました。しかし、日常的にはボールペンやエンピツ、サインペンなどをよく使い日々の生活には欠かせないものとなっていますが、学校では学習が軽視されています。

日本の国字は漢字、かな交り文ですからまとまりよく書くには、学習に時間をかけなくてはなりません。基本をしっかりと身につけていくことが大切でしょう。

前回より「日本の歌」を素材として選んだのは、歌ながら書写でき、初級の人も上級の人もそれぞれ表現に工夫ができるだろうと考えたからです。「てるてる坊主」は日本の子供が親しみのある歌です。楷書に近い字形でまとめてると気脈がつながりにくくなりますので注意して下さい。

※落款を必ず入れる。
(自分の名前を入れること)

今月の

ホープ作品

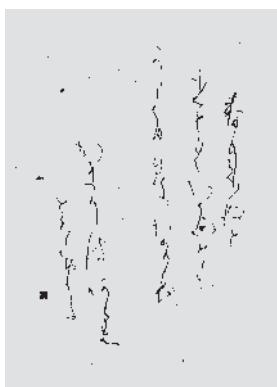
各部総評

No. 612

かな部 師範 松本 泰子

滑らかにリズムで墨色を美しく導き、行の配置や字の大きさなども適格。快い音色が聞こえます。

◎かな部総評 概ねよく出来ていたが、変体がな数・所に注意。かの線はラインではない。筆毛の弾力活かした運筆を。（洋子評）



かな条幅部 師範 吉田 佑子
◎かな条幅部総評 変体がなを最少にしながら、單調に陥らない構成力は見事です。切れよい線の流れが美しくモダン。



◎かな条幅部総評 変体がなの誤字多く残念。手本通りに書く場合も、解説を熟読し、必ず一字ずつ元の字を調べること。（明子評）



現代詩文書部 特選 市川 紫泉

少々読みづらさはあるが墨のたまりと渴筆の密度がすばらしい。構成面も斬新で余白が美しい。

◎現代詩文書部総評 あまりにも文字を造りすぎたものがある。文字本来の姿を大切に。（石雲評）



前衛書部 特選 大友 紅喜

横画を縦画でしつかり支えバランスのよい構成、紙面全体が明るく充実した作となっています。

◎前衛書部総評 書は線が命です。日頃古典で鍛錬し、それを作品に生かしましょう。（光昭評）

◎ペン字部総評 全体的には余白のきいた明るい作品が多かった。ペン先にもう少し筆圧を加えると強弱のリズムに乗って、伸びやかで暖かな線質がとても良い。余白も生きて快作。

◎ペン字部総評 全体的には余白のきいた明るい作品が多かった。ペン先にもう少し筆圧を加えると強弱のリズムに乗って、伸びやかで暖かな線質がとても良い。余白も生きて快作。

漢字部 師範 奥野 佳泉

流麗に筆が紙上で舞い、表情豊かで上質な書線が心に響く。行草作品特有の魅力に溢れている。

◎漢字部総評 古典の臨書を基礎にした着実な学書で、鑑賞力と表現力を身に付けましょう。その上での創作を期待します。（萬城評）



漢字条幅部 師範 山田 琴敷
◎漢字条幅部総評 上級篆書作例

小気味よいリズムで、濃墨による渴筆を生かす。まとまりよく書けているがもう少し広がり欲しい。

◎漢字条幅部総評 上級篆書作例

筆を摸した作多かったが、基本的な用筆が未熟、字形も不正確で不振。自身の研究と工夫を。（大雲評）



◎漢字部総評 古典の臨書を基礎にした着実な学書で、鑑賞力と表現力を身に付けましょう。その上での創作を期待します。（萬城評）

今月の

特別研究部優秀作品(特選)

漢字(京橋) 小林椿寿「ふ」

- ◆躍動感ある筆致で周囲を圧倒する。美しい潤滑も見事。墨と紙の不一致か墨色に冴えがない。要一考。
 - ◆漢字作品を見るか、大字書ならひらかな一ノ二字でも可。悩ましい作だが大胆な運筆、気迫を買う。
 - ◆体全体の力を出して運筆、動きが大きく活動的、終筆に動きを止めてしまつたか線質の表現が不一致。
 - ◆飛沫の方向で動きが伝わるが、稍うつとうしいのは、墨量のせいか?どこかに切れのある線がほしい。
- (明子評)

- ◆躍動感ある筆致で周囲を圧倒する。美しい潤滑も見事。墨と紙の不一致か墨色に冴えがない。要一考。
 - ◆漢字作品を見るか、大字書ならひらかな一ノ二字でも可。悩ましい作だが大胆な運筆、気迫を買う。
 - ◆体全体の力を出して運筆、動きが大きく活動的、終筆に動きを止めてしまつたか線質の表現が不一致。
 - ◆飛沫の方向で動きが伝わるが、稍うつとうしいのは、墨量のせいか?どこかに切れのある線がほしい。
- (龍雲評)

小林椿寿書



86×116cm

前衛書(白珠) 相内珠莉「舞」



70×135cm

現代詩文書
(もくせい)
西川藤象
「有馬朗人の句」

- ◆小画箋全紙にバランスよく表現。やや硬めの筆の破筆の効果が面白い。潤筆部の墨色純く更に研究を。
 - ◆筆が捻れて回転する様が物理的に伝わり、視覚的に魅力あり。俳人の句意とやゝ調和的でないか?
- (明子評)

- ◆紙面の何處に作品の中心を持つて行くか、これだけの筆の動きがあれば余白のバランスも考えて。
 - ◆自由闊達な筆の動きで作品の中心に引き込まれる。求心的な運動だけでなく開放的な動きがあれば…
- (龍雲評)

- ◆筆先の割れを巧みに生かして構成、実に所を得て表現されていいるのに感服。墨色もう一つ冴えが。今後に期待。
 - ◆美しい余白と渴筆に魅力を感じる。敢えて割れた筆先を頗るなく書き進められたのが功を奏した。
- (龍雲評)



180×60cm

西川藤象書

相内珠莉書

選評 大野祥雲

今月のホープ作品



大野純奈

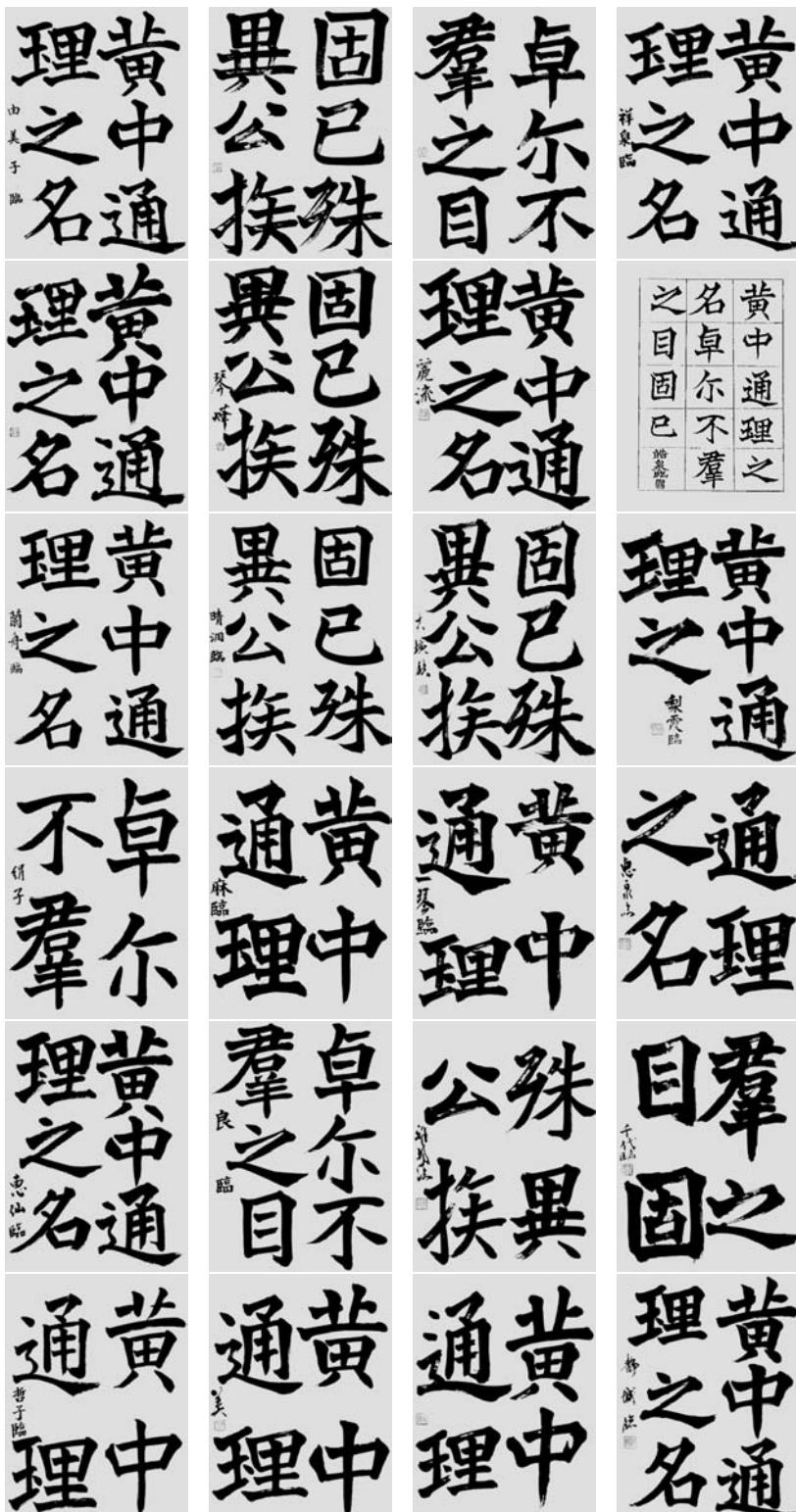
◎漢字研究部總評

課題の高貞碑（十八字）の文字は、引き締めが群を抜く。横画一つを見ても鋭く切り込んだ始筆、少し直筆氣味にした送筆、軽く止めてゆっくり離した終筆。静かなりリズムです。なお各所の白は大きく、落款は小さくしたい。

用筆の素晴らしさと六字の搖ぎないまとめが群を抜く。横画一つを見ても鋭く切り込んだ始筆、少し直筆氣味にした送筆、軽く止めてゆっくり離した終筆。静かなりリズムです。なお各所の白は大きく、落款は小さくしたい。

臨書作が多くあってよかったです。長もある。こうした大きな特徴を把握した臨書作が多くあってよかったです。長もある。こうした大きな特徴を把握した

定感がある。概形は正方形と円形が多く、縦長もある。その一つ「異」は、「曰甲申罪異」の筆順で。また「理」の王（たまへん）の点を忘れている方が沢山いた。六朝、隋の楷書には、点のあるものが多い。



哲惠絹蘭翠由美子仙子舟圃子

美良麻晴琴真知子美洞燁理

湖雅一古麗美静千恵梨皓祥城子泉霞泉泉

か な 研 究 部
(升色紙)

選評 勝山初美

今月のホープ作品

卷之三

飯 高 幹 生

◎かな研究部総評

多くは散らし書の特徴を良くとらえていましたが誤字がめだちました。読みを確かめ、綿密に観察し線の太細・濃淡に留意して書きましょう。

かな研究部 特選 飯高 幹生
行間の広狭の変化の美しさを見事にとらえ、穏やかで、かつピンと張りつめた線質は、優艶で見事な作品となつた。印の大きさに配慮を！

秀生大	大	高峰	A 章玉高竹彩清千硯大千前も秀蓮紅艸大 A	椿奥竹小翠うり
明雲	明	秀	I 泉松井扇月葉水阪葉橋く水紅瑠玄雲翠田扇汀吟る	
岩磯	石	飯新青	伊森塩松河伊小河佐池猪春青富遊須村堀藤平小山長飯高	
崎貝	崎	田木井	藤田澤田岡藤林野々田又山木澤佐田田切村山林村瀬川か	
ひ	ひ	美江	木理	
洋清さ	清	恵知理	寿龍美代星敏嘉惠雅萩理勝啓蕙紅香殊幸昌つ純炎善千	
子耀す	子	秋枝子	子博紅子扇子江子芳溪扇美子子雅舟風靈子昌風秀汀峰生	

高井阪泉月水だ井鷹原原苑崎嶺東昌高倉三櫻大龍彩如秀こ高
井露橋漢美春葉水陵紅春葉会畠華吉汀泉葉峰汀小る苑崎嶺東昌高倉三櫻大龍彩如秀こ高
白京明竹澄千硯高運澄千泉秀正倉春童干英春東う昌高倉三櫻大龍彩如秀こ高
白京明竹澄千硯高運澄千泉秀正倉春童干英春東う昌高倉三櫻大龍彩如秀こ高

戸蘭N大広生英生大生鬼福大竜こN誉安泉樹玉秀玄筑椿高昭澄東誠艸久澄證竜う和正N誠八正岩誠有大こ澄も生京仙童秀松出島H露良大峰大阪大喜山阪泉H田波今百蔵明象桜翠宣徵春絵和玄智春和泉るアヤマH和街賀沢和秋阪ざ春く太極拳会龍虎

小小黑熊君吉北岸菊神川金加加加小小小奥岡大大大遠梅宇字薄鷺鶴植岩入今今井伊伊市石石石石生五飯新新阿熱浅浅阿
路板泉柳谷島瀬又本池田崎岡藤藤野高山森村西藤山野田田澤木渕瀬谷村閑上藤藤川渡橋崎川駒十嵐井部海川川久澤
美智理さくら竹紫春彩春萩善典綾萩龍翠真理久西翠佐喜直一珙久華春春琴如祥祥悠貴心英良順翠知正甘洋萩佳紫藤翠春桃江子君隆
千代子葉蘭翠兩瓣蘭高子美美東隱澄給美鈴子代子美奈子皇華綠舟園苑蘭花皇華二子佐子孫子雨子花学苑雪實清江子

千華春や玉椿如椿調生硯澄玉 大長泉玄秀大東は大一さ艸石大秀翠土明英春有郷春澄竜正生澄う硯八松 湘正五八や大京蒼
選葉祥光川翠月翠布大水春川 阪月会宵水阪向せ阪葦つ玄舟阪歟柳氣漢峰汀秋州光春泉華大春る水雲村 南華葉街町阪橋陽